

ボローニャ大学協定留学 月例報告書（3月）

芸術文化学科4年 土居優莉

Buongiorno!

3月になりました。いつもよりも晴れの日が多くなり、急に暖くなったように感じます。道には花が咲いていて、広場ではたくさんのおしゃべりをしたりジェラートを食べたりして過ごしています。春が来て、そしてすぐに夏になることを思うと、カラッとしたイタリアの空気が待ち遠しい気持ちと、留学生活が終わりに近づいていることへの寂しさでなんとも言えない気持ちになります。また、暖かくなってきたので、冬の間によく飲んだホットチョコレートともそろそろお別れです。美味しいと教えてもらったお店で最後のホットチョコレートを味わってきました。



↑ ホットチョコレート

ボローニャの桜

そんな毎日暖かいボローニャでは最近たくさんの花が一気に咲き始め、少し街を歩くだけで幸せな気持ちになります。日本では全国各地で桜が満開を迎えていると聞きましたが、ボローニャでも街の中心から少し離れた公園で大きな桜の木を見つけました。ボローニャでこんなにも綺麗な桜を見ることができるとは思ってもいなかったのでも嬉しかったですし、少しだけ日本のことが恋しくなりました。桜の下で音楽を聴きながらのんびりと過ごす時間はとても気持ちが良く、リフレッシュになりました。



↑ 桜の下で過ごすゆったりとした休日

新しい授業

2月から引き続き受けている授業に加え、3月から新しい授業も始まりました。初日の授業に行ってみると、10月

から12月の授業で一緒に学んでいた学生がたくさんいて少し緊張がほぐれました。ポピュラーミュージックの授業では、主にアメリカから受けた影響を軸に学んでいるのですが、クラスにいるアメリカ出身の留学生がときどき話をしてくれるのでとても充実した授業になっています。私が取っている授業はどれも5月のはじめごろで授業が終わります。そのためボローニャ大学で授業を受けることができる時間も残りわずかになりました。わからないことは途中で質問をするのが当たり前で、先生方も学生全員がわかるまで何度でも説明してくださります。こんなにも素晴らしい環境で学ぶことができていることに、半年以上経った今でも感動します。いつも助けてくれる友人に感謝しながら、残り少しですが毎日できるだけたくさんのかんことを吸収しようと思います。

Bologna Children's Book Fair

世界最大の児童書の見本市である、Bologna Children's Book Fair に行ってきました。このブックフェアは、毎年ボローニャで開催されているもので、出版社や作家、画家、翻訳家、書店員など絵本や児童書に関わるたくさんのかんが世界中から来場する大きなイベントです。会場に入った瞬間からたくさんのかんのイラストや本が展示されていて、大きな鞆いっぱいのかん本を買い付けている人がいたり、出版社のかんに自分のイラストなどを見せて回っている人がいたり、あるブースでは日本の紙芝居のかんを紹介してイタリア語で紙芝居のかん読み聞かせたりしていました。各ブ

ースでは誰でも自由に絵本を手に取って見ることができ、私は幼い頃から大好きな日本の絵本のかんイタリア語版を買いしました。また、毎年このブックフェアのかんでは国際絵本原画展が開催され、その優秀作品が日本の美術館を巡回します。2021年にはSUACのかんある浜松の美術館でも展示があり、私はそれを観に行っていたのかん、オリジナルのかんイベントを訪れることができるとても感激でした。次回のかん巡回展を見に行くのかんとても楽しみに became ました。



↑紙芝居のかん読み聞かせ

おわりに

3月が終わり、急に留学のかん終わりを意識するようになりました。今まで過ごした7ヶ月間のかん得たのかんやできるようになったのかんがたくさんあるように、ここからのかん残りの4ヶ月でも授業も、友だちとの予定も、見たいのかん、したいのかんこともすべてやり切ったと言えるように、毎日大切に過ごしたいです。今月もありがとうございました。